ガロ400号記念寄稿

セイネン

鈴木翁二

ガロという雑誌に関わり始めた当時のことをちょっとだけ書きます。

居候を決めこんでいた友人宅を黙って飛び出して、練馬区のとあるアパートで第2作目を描いていた頃のことです。道路の片はじぎりぎりにガードレールを立てて申し訳の歩道がついている、そんな、電柱とか建物の出っ張りとかにぶつからなければ歩けないような〈歩道〉が東京にはよく見られました。たとえばそこを歩きながら、そういった歩道を案出した〈力〉について、好むと好まざるとに関わらず、認めざるを得ないといった心持ちの20歳の青年の姿を、読者は想像してみてください。この青年は現在を保証するための担保に入れる何も持っていない青年です。どうにかなるんだと自分に言い訊かせてやってきて、どうにもならぬ状況、とかもそれは予測し、対処できた状況の中を今歩いています犬にでも見えませんか。

さて、この愚かな動物は、20歳の私は、二階アパートの自室で昼日中から寝ていました。腹ペコだし行く宛も無かったからです。寝るのはタダですからね。硝子窓の向こうの晩秋の気配が眠っていてさえ分かっていました。毎日を、刻々と、焦燥と不安とにかられて過ごしていたからです。

夕方が近づいた頃でした。誰かが階段を登って来て私の扉をノックしました。ああ目を醒まさなければと思いました。返事をしてやらなければと。俺は留守じゃない、此処に居るよ！　でも思うように目は醒めてはくれません。長い沈黙のあとで、深い溜息の気配がしました。悄然と肩を落とした後姿がアパートの落ち葉の庭を横切って、線路脇の小道を帰って行くのが見えるのでした。駄目だ！俺を置いて行かないでくれ！　なにか叫んだ拍子に私の目は醒めました。階下に住む大家に問うと、そんな客は無かったとの返事でしたが、でも、ほら、今来たでしょう！大家の答えが信じられずに、私は表へ飛び出したのです。

美しい静かな晩秋の路線道でした。レールは商店街のある方角へと真っすぐにのびていて，どう目を凝らして見ても、その先は空へと昇っているような気がしました。私はある危惧を覚えました。投身・・・。漠然とそんな言葉が心に浮かんで、私を囚えたのです。

行き違う人の顔を覗き込むようにして、あなたですか？　では俺の客を見ませんでしたか？　と声に出しながら、私は駈けて来たのです。引き返して来るかもしれない、待っているのかもしれない、と切望したからです。けれど数百歩も行かないうちに私の期待は薄汚れたものとなり、いれかわりに、こんな神々しい夕景の中で、こんなことに必死になっている自分の姿が愚かであり、滑稽であり・・・、その身すぼらしいさが恥ずかしくなってきたのです。そのとき、「投身」という思いが、空に倒れかけている地球の影のように私の心に横たわったのです。

俺がグズグズしていたせいで俺の客は今身を投げたのだ・・・叫んで駈け出すのが恥ずかしいばっかりに・・・俺は見殺したのだ・・・。捨てられた者の悲哀が夕方の空気になって、私の身を包みました。アパートへと引き返した私は長い溜息をついて夜を迎えた気がします。

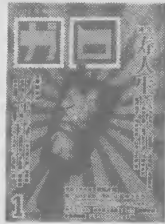
かなりあとになっても、私は、私が眠りながら空想し願望した架空の客の実在性については、半信半疑の態度しかとれませんでした。そして私は私の心と体との関係です。何処にも行く宛が無く、来る者もある筈がなかったから、心は体を欺き、体は心を一瞬だけあたためてくれたのだ。そう考えたのはずっと後です。あの夕景の美しさは、夜になる前に瞥見した、非情なものの美しさでした。あのとき私は幻想の客をむざむざと見殺しにしたからこそ、あの夕景の中に佇っていられたのかもしれないなぁと。レールの行く先には、かつて通い馴れた盛り場がありました。そこしかなかったので、俺の心がレールを空へと歪ませて見せてくれたんだなあと。

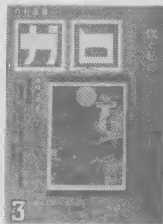
◆　◆

とある日に私が見捨てた〈幻想〉共に関する2冊の漫画本を、この初夏に出しました。

東京グッドバイ　北冬書房刊（1600円）
少年が夜になるころ　ふゅーじょんぷろだくと刊（950円）

Monthly Eccentric Comix Magazine

バックナンバー在庫一覧表ガロ

▲97年1月号

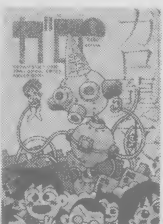
▲97年2月号

▲97年3月号

▲97年4月号

▲97年5月号

▲97年6月号

▲97年7月号

▲97年8月号

▲98年1月号

▲98年2月号

▲98年3月号

▲98年4月号

▲98年5月号

▲98年6月号

▲98年7月号

特集&主な執筆者

■95年4月号
●特集…世紀末●蛭子能収「地獄のサラリーマン」
■95年5月号
●特集…真実のマルチメディア●高信太郎「幻想の明治」
■95年6月号
●特集…丸尾末広●ますむらひろし「再会」
■95年7月号
●特集…新・面白主義●糸井重里＋湯村輝彦「ペンギンごはん」
■95年8月号
●特集…祝再版記念「幻の廃本解放同盟」
●ひさうちみちお「愛妻記」
■95年9月号
●特集…宮沢賢治の世界●谷弘兒「闇小路家の密室」
■95年10月号
●特集…ガロまんが道●ユズキカズ「シカゴパレス」
■95年11月号
●特集…ガロ的読書術●しりあがり寿「コイソモレ先生」
■95年12月号
●特集…ザ・いいたい放題●花輪和一「唐櫃の中」
■96年1月号
●特集…ガロ的映画特集●花くまゆうさく「キャプテン」
■96年2月号
●特集…新人漫画大行進4●淀川さんぽ「墓のない男の物語」
■96年4月号
●特集…追悼・長井勝一②●〈再録〉赤瀬川原平「おざ式」
■96年6月号
●特集…マンガの読み方●秋山亜由子「虫けら様」
■96年7月号
●特集…オレ流アート●東陽片岡「ステバチな漫画」
■96年8月号
●特集…人生50から●友沢ミミヨ「ラグナグ人」
■96年9月号
●特集…今こそ、演劇！●キクチヒロノリ「まさひろくんじゃだめ」
■96年10月号
●特集…ワークショップガロ●春礼六「ぴいたん町」
■96年11月号
●特集…ジャパニーズ・ロックの問題児
●ムラタ知穂「嘘吐き金魚」
■96年12月号
●特集…垂涎の大放出!!●井口真吾「Z-CHAN」
■97年1月号
●特集…寿人生●山野一「蟹工船」／佐藤麻里「祈りの重さ」
■97年2月号
●特集…新人漫画大行進●古屋兎丸「エミちゃん」
■97年3月号
●特集…僕と私の脳内リゾート●みぎわパン「宇宙人の習性」
■97年4月号
●特集…妖しい挿絵画廊●本秀康「フラレた気持ち」
■97年5月号
●特集…漫画評論新人賞●田口トモロヲ「勝手にしゃ～がれ」
■97年6月号
●特集…音響フェチ●湊谷夢吉「惜夏記」
■97年7月号
●特集…トラッシュ・コミック●河井克夫「東くんの恋人」
■97年8月号
●特集…私の中学生日記●松井雪子「慎一さんみたいなもの」
■98年1月号
●松本充代／あさりよしとお／つげ忠男／永野のりこ／唐沢なをき
■98年2月号
●発表ー長井勝一賞●南Q太／菅野ヲサム／あびゅうきょ／ねこぢる
■98年3月号
●みうらじゅん／羽生生純／永野のりこ／津野裕子／山波千紘／松本充代
■98年4月号
●キクチヒロノリ／逆柱いみり／大越孝太郎／松本充代／うらたじゅん
■98年5月号
●有川祐／ねこぢる／町野変丸／川崎ゆきお／あさりよしとお
■98年6月号
●逆柱いみり／細川貂々／QBB／キクチヒロノリ／町野変丸

バックナンバーの入手方法

現在、青林堂ではバックナンバーの直接販売は行っておりません。お手数ですが、まず、一覧で在庫の有無を調べてから書店にお申し込み下さい。よろしくお願いします。なお、定価は95年6月号まで550円、95年7月号より680円です（但し97年5月～8月は690円）。